週間火山概況（平成 23 年２月 18 日～平成 23 年２月 24 日）

【火山現象に関する警報及び予報の発表状況】

いずれの火山についても、噴火に関する予報警報事項（警戒すべき事柄）に変更はない。

表１　火山現象に関する警報及び予報の発表履歴（２月 18 日～２月 24 日）

発表日時	火山名	警報・予報	概　要
２月 18 日 18 時 40 分	霧島山 (新燃岳)	降灰予報	噴火に伴う降灰地域予想
毎日 07 時、17 時	三宅島	火山ガス予報	島内の火山ガスの分布予想

表２　２月 24 日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル３（入山規制）	霧島山（新燃岳）、桜島
	レベル２（火口周辺規制）	三宅島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報及び火山現象に関する海上警報	周辺海域警戒	福徳岡ノ場
噴火予報	レベル１（平常）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ケ岳、岩手山、秋田駒ケ岳、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、草津白根山、浅間山、御嶽山、富士山、箱根山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山(御鉢)、口永良部島
	平常	上記以外の活火山

図１　噴火警報発表中の火山（２月 24 日現在）

【警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

三宅島（みやけじま）［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］

噴煙高度は火口縁上100～200mで経過した。

火山性地震は、やや少ない状態で経過した。

24日に行った現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は一日あたり1,000トン（前回１月20日、1,000トン）と、多い状態が続いている。

三宅村によると、山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に対する警戒が必要である。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があると予想される地域では、火山ガスに対する警戒が必要である。

硫黄島（いおうとう）［火口周辺警報（火口周辺危険）］

独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると、2010 年８月頃から地震活動は比較的活発である。

国土地理院の観測によると、2006 年８月に始まった島全体の隆起を示す地殻変動は、2010 年 11 月中旬頃から 12 月にかけて一時鈍化したが、2011 年１月末頃から隆起速度が増加している。島内南北方向の伸びの傾向は継続している。

火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、これまで小規模な噴火が発生した島東部の海岸付近、島西部（井戸ヶ浜等）及び南東沖（翁浜沖）では噴火に対する警戒が必要である。

福徳岡ノ場（ふくとくおかのば）［噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報］

今期間、海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁による上空からの観測は行われなかった。これらの機関のこれまでの観測によると、福徳岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されており、今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

霧島山（きりしまやま）（新燃岳（しんもえだけ））［火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）］

新燃岳では 18 日 18 時 16 分に爆発的噴火が発生し、噴煙が火口縁上 3,000m、大きな噴石[1)] が新燃岳火口から１㎞まで達した。また、24 日 03 時 38 分に噴火が発生し、噴煙が火口縁上 600mまで上がり雲に入った。

18 日及び 21 日に陸上自衛隊西部方面ヘリコプター隊第１飛行隊の協力を得て行った上空からの観測では、火口内に蓄積された溶岩は直径 600m程度で大きな変化はなかった。

火山性地震はやや多い状態が続いており、18 日 18 時 16 分の爆発的噴火及び 24 日 03 時 38 分の噴火の前後に増加した。火山性微動は時々発生した。

国土地理院のGPSによる地殻変動観測では、１月 26 日の噴火以降、地盤の縮みが観測されたが、２月１日以降停滞している。

新燃岳火口から概ね４㎞の範囲では、大きな噴石[1)] に警戒が必要である。新燃岳火口から概ね３㎞の範囲では、火砕流に警戒が必要である。風下側では降灰及び遠方でも小さな噴石[1)]（火山れき[2)]）に注意が必要である。これまでの噴火では、風に流されて直径４㎝程度の小さな噴石[1)]（火山れき[2)]）が新燃岳火口から 10㎞を超えて降っている。また、爆発的噴火に伴う大きな空振に注意が必要である。降雨時には泥流や土石流に警戒が必要である。

桜島（さくらじま）［火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）］

昭和火口では爆発的噴火が２回発生し、大きな噴石が５合目（昭和火口から 500～800m）まで達した。

南岳山頂火口では、噴火は発生しなかった。

火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いている。

国土地理院のGPSによる地殻変動観測では、姶良（あいら）カルデラ（鹿児島湾奥部）深部の膨張による長期的な伸びの傾向がみられている。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね２㎞の範囲では、大きな噴石[1)]及び火砕流に警戒が必要である。

風下側では降灰及び遠方でも小さな噴石[1]（火山れき[2]）に注意が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。

薩摩硫黄島（さつまいおうじま）[火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）]

火山性地震は少ない状態で経過した。硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態が続いている。

火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね１㎞の範囲では噴火に対する警戒が必要である。風下側では降灰及び遠方でも小さな噴石[1]に注意が必要である。

諏訪之瀬島（すわのせじま）[火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）]

御岳（おたけ）火口では、今期間噴火は確認されなかったが、長期にわたり噴火を繰り返している。同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測した。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね１㎞の範囲では大きな噴石[1]に警戒が必要である。風下側では降灰及び遠方でも小さな噴石[1]に注意が必要である。

【噴火予報発表中の火山の活動状況及び予報事項】

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はない。

１）噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことである。

２）霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。

注）データについては精査により、後日修正することがある。

【参考】　噴火警報及び噴火予報と噴火警戒レベル等の対応表

噴火警戒レベル導入火山		噴火警戒レベル未導入火山
噴火警戒レベル（キーワード）	警報・予報	警戒事項等（キーワード）
レベル５（避難）	噴火警報	居住地域厳重警戒
レベル４（避難準備）		または山麓厳重警戒
レベル３（入山規制）	火口周辺警報	入山危険
レベル２（火口周辺規制）		火口周辺危険
レベル１（平常）	噴火予報	平常

海底火山については、噴火警報（キーワード：周辺海域警戒）と噴火予報（キーワード：平常）で発表する。